

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172500247-00&PrefCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設での夏祭り・クリスマス会は盛大に行い、ご家族・地域ボランティアなど多くの方に参加頂けるようになりました。今年は家族面談会を行い、ご家族様に現在の状況報告やご意見を頂ける機会を持ちました。毎月生花教室や書道教室のボランティアに来て頂き、楽しみにされている利用者も多くいらっしゃいます。神戸町の認知症カフェに職員と利用者で一緒に参加し、パワの里では地域で顔なじみの方と話せる機会も多くあり、毎月出かけています。個別で外出したいという要望に応え、職員とお墓参りや買い物や銀行などに出かける事もあります。地域交流では民生委員ボランティアや区の行事・学校行事に参加しています。医療に於いては主治医である内科医、歯科医、精神科医と常に連携を取り素早い対応ができ、高齢・重度化に伴ったターミナルケアや個別対応が出来る体制を備えています。職員のスキルアップの為、法人で合同研修を今年度から毎月開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域ボランティアを受け入れ地域に溶け込んだ協力関係を築きたいと考えている。運営推進会議では、詳細な現状報告をし、メンバーからは多くの質問、意見、要望を受け活発な意見交換をしている。恒例の夏祭りは多くの家族・地域住民と交わり、利用者の楽しみとなっている。馴染みの関係の継続になるよう、事業所の和室を「ひまわりレストラン」として解放している。家族、親族、友人、知人など誰でも、食事を持ち込み、利用者と気軽に語らいくつろげる居場所としている。今年度は家族会を個別面談日とする事で具体的に意見、要望を受けることができた。これらを事業所の運営や職員の質の向上に活かさせたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「口を出さない。手を出さない。見逃さない。」の理念を毎朝職員一同で唱和しています。理念の共有の為、会議で職員同士で理念の意味を深く考え実際の介護につながるようにしています。	職員会議で、理念をより具体的に「どういうことか」を職員が一人ひとり、自分の言葉で話しあい学びながら共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域ボランティアに来て頂き、夏祭りなどの行事にも参加してもらっています。区の夏祭りや防災訓練・小学校運動会・文化祭展示などの参加もしています。認知症カフェには以前から顔なじみの方と会える場所として参加しています。	事業所の夏祭りを、各区長、地域ボランティアにチラシで知らせている。運営推進会議の場でボランティアから情報を得て、文化祭に出品したり、防災訓練に参加したりしてつながりを深めている。近隣から野菜などを頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターや神戸町社会福祉協議会より、依頼をうけて、地域の方に認知症を知って頂き、認知症の方をサポートして頂ける方が増えるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営について意見を頂く他に介護報酬・制度の改定などの情報を意見交換したり、神戸町での認知症カフェなどの取り組みについて詳しく話ができた。高齢者虐待等、話題の内容など当施設の取り組みを交えて話をしています。	事業所から実情を報告している。参加者からはマイナンバーについてや、行事の質問など活発に意見や提案がある。欠席メンバーには議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、地域の認知症カフェの立ち上げをする事ができた。包括支援センターの窓口には定期的に足を運び、情報交換や施設の報告書の提出を行っています。	利用者に関する相談、報告、書類の提出に出かけている。行政からは、独居の人や遠方家族の入所相談がある。情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」スローガンを提示してある。職員の中で、権利擁護推進員養成研修を受講し、社内研修などを通じて全職員が認識するようにしています。	社外・社内研修に参加して、拘束の意義を全職員に伝え、話し合いながら、現在拘束はしていない。言葉かけの拘束や、ヒヤリハット事例なども検討し工夫しながら拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修で、虐待について職員が勉強しています。職員同士で虐待行為がないかお互いに話し合い、虐待防止に努め、発見できるよう努めています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修などで学びが必要があれば提案しています。行政と相談し、成年後見制度を活用する事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営理念・説明文書をホーム内に張り出している。運営理念、説明文書を入居者および家族にわかりやすく説明し、理解・納得されるまで説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には必ず声かけして、意見を聞いている。年に一度家族会を開催し、意見を頂ける場所を作っています。今年は個別で面談し、普段いいにくい事も話せる場となりました。苦情を受けた場合は、記録し、改善に努めています。運営推進会議などを通じ報告し、今後の運営の改善に努めています。	家族会を年1回開いている。今年度は個別に家族と面談して、レクリエーション・体操など多く取り入れて欲しいなどの要望や、終末期への不安などの意見があった。職員会議等で話し合い改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の施設の月例ミーティングの時に職員から意見・要望を聴いています。施設長が法人の役職会議で意見・要望を伝えています。	施設長は、言いやすい雰囲気を作り意見や、困りごとなど声かけしながら聞いている。云い辛いかなと感じたときは個別に対応している。歩行器やソファなどの備品や炊飯器の買い替えなどの要望や提案があり、法人会議にかけて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、人事考課を実施している。各自課題を把握して向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修スケジュールを立てて、職員のスキルアップに努めています。法人内でも合同研修を毎月開催して、職員の学ぶ機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・安八郡介護サービス連絡会に加入しており、会を通じて、研修・勉強会に参加し、意見交換する機会を作っています。認知症の人と家族の会に入会し、認知症の家族の思いから施設の質の向上につなげています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人・家族の不安や困っている事・本人希望する生活を把握し、本人の望む暮らしに沿うように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前に、本人・家族が希望する生活や今不安に思っている事を聴き、納得していただけるサービス提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族には面談前後に施設を見学していただきわからないことはその都度、質問していただいています。また、生活全般での困りごとがある場合は相談を受け、行政・その他関係機関に繋げるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員であったり、生活を共にするパートナーとして喜怒哀楽を共にしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出の他にも、行事と一緒に参加していただく事で家族の時間を過ごしてもらっている。毎日の様子は写真を見たり、報告したり職員がパイプ役となり支援しています。毎月職員よりお便りを送付しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーや喫茶店に行ったり、個別に銀行や墓参り・バラの里(介護予防施設)など馴染みの場所への外出支援も行っています。知人や家族・親戚が来られた時はゆっくりとお茶を飲みながら話せる様支援しています。	本人が電話で誘ったり、友人が毎日利用する憩いの場に定期的に出かけたりして関係が途切れないようにしている。和室を「ひまわりレストラン」として開放し、家族、親族、友人などが訪れ、食事を持ち込んで自由に、語らいくつろげる場としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者のそれぞれの個性を把握して、その人が孤立しないように努めている。話の合う利用者がいれば、一緒に席にしたり配慮しています。スタッフは見守りながら、時には間に入ったりし良い関係が築けるようにしています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できる様に窓口を設けてあります。また他のサービスを受けようと要望されるときには情報提供して、今後の生活の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者はどんな生活がしたいか、昔やっていた得意な事など、普段から耳を傾けて計画の中に取り入れながら支援しています。意思疎通が困難と思われる方の希望、意向は本人の立場に立って考え、ご家族の情報等をふまえて検討しています。	日々の暮らしの中で、雑談や入浴中の会話から出た言葉を把握している。「うなぎが食べたい」「入れ歯が欲しい」の声に、歯科を受診して入れ歯をつくり願いを叶えている。家族からも情報を得ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況をご家族、かかりつけ医、関係者等から情報収集を行い、既往歴、生活状況、性格などを把握し、入居者情報に記録して、今後のサービスに繋げることができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活パターンを情報収集から把握しています。また、心身状態など専門知識などが必要な場合は、医師、看護師などと相談しながら支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスで出た課題についてサービス内容を介護記録に反映している。3ヶ月に一度担当者会議で意見を求め、ご家族様にもその都度お伝えしています。様態・要介護度が変われば介護計画を変更しています。	月1回全職員でカンファレンスを実施している。担当職員の意見や介護日誌からモニタリングしている。体調の変化など気になる時は即、見直している。利用者・家族や、医師の助言を取り入れながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬などが記録されています。ケアプランに沿ったケアの実践・結果や気づいた事を記録し、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出(お葬式など)、買い物、通院(提携医以外)などそれぞれに必要な時に、本人、家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様から情報を頂き、盆踊り、運動会、文化祭への出品、地域行事に積極的に参加しています。定期的に地域ボランティアに来て頂いたり、以前入所されていた方のご家族からボランティアに来て頂いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として、病院、精神科医、歯科医などとの協力しながら、往診、通院の体制が整っています。本人、ご家族様の要望で外部のかかりつけ医で診察を受けられる方には、情報交換等支援しています。	かかりつけ医は家族の希望に合わせている。家族と受診する時は状態を口頭や書面で伝え、必要時は看護師が代行することもある。受診結果を看護師が管理し、かかりつけ医や協力医と連携しながら支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異変が見られた場合、些細なことでも職場内の看護師に伝え、必要となれば診察を受けられる体制が整っています。緊急時も速やかに受診できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師を中心として、入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告をして、早期退院に向けて病院関係者と話し合える関係づくりに努めている。入院中も本人の様子を把握するなど支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方が増え、終末期の事前アンケートを実施し家族の意向の把握に努めています。本人、家族の意向に沿い、医師・看護師・介護士等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいます。様態が急変した場合はその都度対応策を検討し、ケアプランに反映させ、支援しています。	契約時に事業所の方針を伝えている。利用者の状態に合わせ医師の指示で、家族、看護師、職員を交えて看取りについて話し合っている。状態の変化に合わせ、医師、家族と幾度も話し合いながら、また、家族と同意書を取り交わしながら看取りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの研修を受けたり、看護師からの施設内研修を実施したりして、職員全員に周知しているが、継続して研修会を行って、実践力を身につけるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器、スプリンクラー、通報装置を設置している。年2回夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施し、運営推進会議で地域の方の協力もお願いしています。地震対策として3日分の食糧と水・防寒用品等を備蓄しています。	夜間想定を含め年2回避難訓練を実施している。その都度反省事項を記録しマニュアルを見直している。避難時には地域住民の協力を運営推進会議を通してお願いしている。家具の転倒防止装置や備蓄もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性や思いを尊重して、その人に合った支援を心がけています。利用者を中心として考え、人生の先輩であることを職員が自覚して声掛けにも注意しながら支援しています。プライドを傷つけないよう配慮して対応しています。	特に言葉使いに注意し、気になるときは、その都度職員同士注意し合っている。名前の呼び方や命令的な声かけにならないよう話し合っている。トイレの羞恥心の配慮に長めのカーテンに改善したが十分とはいえない。	長めのカーテンに改善したが、廊下からの目線は気になる状態にある。ハード面も考慮し、再度全職員で検討されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな選択を用意して本人に決定していただけるように支援しています。食事メニューに意見を取り入れたり、買い物・喫茶店など個々に決定できるようにしています。認知症の重度化により自己決定できない方については職員本位にならないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮して、本人のペースで過ごして頂いています。家事活動など本人がやりたい事を職員と一緒にやりたりして日課になっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日の始めに鏡の前で身だしなみを整えてもらえるように支援しています。お出かけする時や、行事など自分で化粧される方や、職員が化粧したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・千切りや盛り付け作業をやっています。下膳は各自職員と一緒に台所まで持って行って頂き、食器を洗って頂ける時もあります。食器・お盆拭きなどもやっています。本人の調子に合わせて行っています。	利用者の好みを献立に取り入れている。両ユニット同じ献立となっているが、盛り付けで工夫している。利用者の状態に合わせ、下膳・盆拭きをしている。必要以上にエプロンを付けない工夫もしている。外食も取り入れ楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量は1000cc～1200cc補給できるように工夫しながら支援しています。栄養摂取量が少ない利用者には栄養補助食品や好みの物をご家族から聴き食べて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で歯磨きをしていただき、職員が確認しています。就寝前に義歯をは外し洗浄剤に漬けておきます。歯科医師、衛生士の指導の下、チェックして適切な治療を受けています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記入して排泄パターンを把握し、定期的にトイレ声掛けし、枚数を減らすように努めています。日中布パンツに戻した方もいらっしゃいます。専門家による講習会を開きオムツのあて方やその人に合ったオムツ・サイズを考えたりしています。	利用者の排泄パターンを把握している。利用者の言動のサインを見逃さず誘導している。紙パンツから布パンツに変更した事例もある。利用者に合ったパットの当て方やサイズを業者を招いて学んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り、食事、おやつなどで乳製品の摂取しています。排泄の記録を確認しながら、便秘が続けば医師の指導を受けています。また体操をしたり、適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週2回以上入浴して頂いています。入浴時間は決めています。入浴前には拒否される利用者も入浴すると楽しんでいい気分になります。できる限り、着脱衣・洗髪・洗身が自分できるよう支援しています。	希望にあわせ毎日の入浴も可能にしている。入浴剤や季節の湯を取り入れ、順番や湯温も好みに合わせている。思い出話をしたり、好きな歌を歌ったり、楽しくくつろげるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床、昼寝、就寝ができるように支援しています。不眠、昼夜逆転等がある場合は、日中の活動を工夫したりしています。深刻な場合は医師と相談しながら改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には、必ず名前、日付、飲み残しがないかを確認します。職員が一人一人の服薬ファイルを確認できるようになっています。万が一誤薬があった場合、看護師に報告し、適切な判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から楽しみ喜びを把握してその人に合った支援をしています。カラオケ、塗り絵、お経、散歩などその人に合った楽しみ方で気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に行きたい所を聴いて、外出を計画して出かけています。家族にも参加していたできるように努めています。お墓参り・スーパーへの買い物・喫茶店など馴染みの場所へ行きたい方は外出支援しています。	近くの寺院への散歩や、中庭での花や野菜の世話など屋外で外気に触れるようにしている。個別の希望の場所(本屋、喫茶、銀行)にも出かけている。年間行事の季節の花見にも、家族の協力を得ながら外出の機会を多くしている。職員の外出時には一声かけて一緒に出掛けている。	

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力にに合わせて要望があれば所持できるように支援しています。必要なものがあれば職員と共に買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけれるように支援しています。年賀状なども書いていただき家族に届くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはゆったりと腰掛けられるソファが配置されテレビを見る方、窓から花を眺めたりして過ごされる方など配置場所を考えています。日時がわかるよう日めくりカレンダーをめぐつてもらっています。季節の飾りや、季節の歌、行事の写真などを壁に張っています。	中央の円卓で食事や趣味のものの作りをしている。窓際にソファを並べ好みの居場所となっている。廊下には行事の写真や季節の絵を飾っている。調理の匂いが生活感を感じさせる。歩行器、車椅子の移動も安全で程よい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室には自由にカーペット、椅子など持ち込んでいただき、気の合った利用者、家族と気軽に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの、又思い出のものの家族の写真などを自由に飾っていただき、その人らしい雰囲気の中過ごせるように工夫しています。生花教室で作った作品等も飾っています。	居室はベット、畳にふとんを敷くなど本人の好みに合わせている。入り口には、のれんや自身の写真を飾っている。家族写真や友人との記念写真、自作の作品など思い出のあるものを持ち込んで、自分らしい居室となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念の一つ「もてる力が発揮できるよう」と掲げてあるように利用者の身体状況に合わせて、安全また生活の質が低下しないよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178		
自己評価作成日	平成27年10月26日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172500247-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「口を出さない。手を出さない。見逃さない。」の理念を毎朝職員一同で唱和しています。理念の共有の為、会議で職員同士で理念の意味を深く考え実際の介護につながるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域ボランティアに来て頂き、夏祭りなどの行事にも参加してもらっています。区の夏祭りや防災訓練・小学校運動会・文化祭展示などの参加もしています。認知症カフェには以前から顔なじみの方と会える場所として参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターや神戸町社会福祉協議会より、依頼をうけて、地域の方に認知症を知って頂き、認知症の方をサポートして頂ける方が増えるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営について意見を頂く他に介護報酬・制度の改定などの情報を意見交換したり、神戸町での認知症カフェなどの取り組みについて詳しく話ができた。高齢者虐待等、話題の内容など当施設の取り組みを交えて話をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、地域の認知症カフェの立ち上げをする事ができた。包括支援センターの窓口には定期的に足を運び、情報交換や施設の報告書の提出を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」スローガンを提示してある。職員の中で、権利擁護推進員養成研修を受講し、社内研修などを通じて全職員が認識するようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修で、虐待について職員が勉強しています。職員同士で虐待行為がないかお互いに話し合い、虐待防止に努め、発見できるよう努めています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修などで学びが必要があれば提案しています。行政と相談し、成年後見制度を活用する事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営理念・説明文書をホーム内に張り出している。運営理念、説明文書を入居者および家族にわかりやすく説明し、理解・納得されるまで説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を開催し、意見を頂ける場所を作っています。今年は個別で面談し、普段いいにくい事も話せる場となりました。苦情を受けた場合は、記録し、改善に努めています。運営推進会議などを通じ報告し、今後の運営の改善に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の施設の月例ミーティングの時に職員から意見・要望を聴いています。施設長が法人の役職会議で意見・要望を伝えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、人事考課を実施している。各自課題を把握して向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の外部研修スケジュールを立てて、職員のスキルアップに努めています。法人内でも合同研修を毎月開催して、職員の学ぶ機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・安八郡介護サービス連絡会に加入しており、会を通じて、研修・勉強会に参加し、意見交換する機会を作っています。認知症の人と家族の会に入会し、認知症の家族の思いから施設の質の向上につなげています。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人・家族の不安や困っている事・本人希望する生活を把握し、本人の望む暮らしに沿うように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前に、本人・家族が希望する生活や今不安に思っている事を聴き、納得していただけるサービス提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族には面談前後に施設を見学していただきわからないことはその都度、質問していただいています。また、生活全般での困りごとがある場合は相談を受け、行政・その他関係機関に繋げるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員であったり、生活を共にするパートナーとして喜怒哀楽を共にしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出の他にも、行事と一緒に参加していただく事で家族の時間を過ごしてもらっている。毎日の様子は写真を見たり、報告したり職員がパイプ役となり支援しています。毎月職員よりお便りを送付しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーや喫茶店に行ったり、個別に銀行や墓参り・バラの里(介護予防施設)など馴染みの場所への外出支援も行っています。知人や家族・親戚が来られた時はゆっくりとお茶を飲みながら話せる様支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者のそれぞれの個性を把握して、その人が孤立しないように努めている。話の合う利用者がいれば、一緒に席にしたり配慮しています。スタッフは見守りながら、時には間に入ったりし良い関係が築けるようにしています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できる様に窓口を設けてあります。また他のサービスを受けようと要望されるときには情報提供して、今後の生活の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者はどんな生活がしたいか、昔やっていた得意な事など、普段から耳を傾けて計画の中に取り入れながら支援しています。意思疎通が困難と思われる方の希望、意向は本人の立場に立って考え、ご家族の情報等をふまえて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況をご家族、かかりつけ医、関係者等から情報収集を行い、既往歴、生活状況、性格などを把握し、入居者情報に記録して、今後のサービスに繋げることができるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活パターンを情報収集から把握しています。また、心身状態など専門知識などが必要な場合は、医師、看護師などと相談しながら支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスで出た課題についてサービス内容を介護記録に反映している。3ヶ月に一度担当者会議で意見を求め、ご家族様にもその都度お伝えしています。様態・要介護度が変われば介護計画を変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬などが記録されています。ケアプランに沿ったケアの実践・結果や気づいた事を記録し、情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出(お葬式など)、買い物、通院(提携医以外)などそれぞれに必要な時に、本人、家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様から情報を頂き、盆踊り、運動会、文化祭への出品、地域行事に積極的に参加しています。定期的に地域ボランティアに来て頂いたり、以前入所されていた方のご家族からボランティアに来て頂いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として、病院、精神科医、歯科医などとの協力しながら、往診、通院の体制が整っています。本人、ご家族様の要望で外部のかかりつけ医で診察を受けられる方には、情報交換等支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異変が見られた場合、些細なことでも職場内の看護師に伝え、必要となれば診察を受けられる体制が整っています。緊急時も速やかに受診できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師を中心として、入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告をして、早期退院に向けて病院関係者と話し合える関係づくりに努めている。入院中も本人の様子を把握するなど支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方が増え、終末期の事前アンケートを実施し家族の意向の把握に努めています。本人、家族の意向に沿い、医師・看護師・介護士等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいます。様態が急変した場合はその都度対応策を検討し、ケアプランに反映させ、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの研修を受けたり、看護師からの施設内研修を実施したりして、職員全員に周知しているが、継続して研修会を行って、実践力を身につけるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器、スプリンクラー、通報装置を設置している。年2回夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施し、運営推進会議で地域の方の協力もお願いしています。地震対策として3日分の食糧と水・防寒用品等を備蓄しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性や思いを尊重して、その人に合った支援を心がけています。利用者を中心として考え、人生の先輩であることを職員が自覚して声掛けにも注意しながら支援しています。プライドを傷つけないよう配慮して対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな選択を用意して本人に決定していただけるように支援しています。食事メニューに意見を取り入れたり、買い物・喫茶店など個々に決定できるようにしています。認知症の重度化により自己決定できない方については職員本位にならないようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮して、本人のペースで過ごして頂いています。家事活動など本人がやりたい事を職員と一緒にやりたりして日課になっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日の始めに鏡の前で身だしなみを整えてもらえるように支援しています。お出かけする時や、行事など自分で化粧される方や、職員が化粧したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・千切りや盛り付け作業をやって頂いています。下膳は各自職員と一緒に台所まで持って行って頂き、食器を洗って頂ける時もあります。食器・お盆拭きなどもやって頂いています。本人の調子に合わせて行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量は1000cc～1200cc補給できるように工夫しながら支援しています。栄養摂取量が少ない利用者には栄養補助食品や好みの物をご家族から聴き食べて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で歯磨きをしていただき、職員が確認しています。就寝前に義歯をは外し洗浄剤に漬けておきます。歯科医師、衛生士の指導の下、チェックして適切な治療を受けています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記入して排泄パターンを把握し、定期的にトイレ声掛けし、枚数を減らすように努めています。日中布パンツに戻した方もいらっしゃいます。専門家による講習会を開きオムツのあて方やその人に合ったオムツ・サイズを考えたりしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り、食事、おやつなどで乳製品の摂取しています。排泄の記録を確認しながら、便秘が続けば医師の指導を受けています。また体操をしたり、適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週2回以上入浴して頂いています。入浴時間は決めています。入浴前には拒否される利用者も入浴すると楽しんでいい気分になります。できる限り、着脱衣・洗髪・洗身が自分でできるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床、昼寝、就寝ができるように支援しています。不眠、昼夜逆転等がある場合は、日中の活動を工夫したりしています。深刻な場合は医師と相談しながら改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には、必ず名前、日付、飲み残しがないかを確認します。職員が一人一人の服薬ファイルを確認できるようになっています。万が一誤薬があった場合、看護師に報告し、適切な判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から楽しみ喜びを把握してその人に合った支援をしています。カラオケ、塗り絵、お経、散歩などその人に合った楽しみ方で気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に行きたい所を聴いて、外出を計画して出かけています。家族にも参加していただけるように努めています。お墓参り・スーパーへの買い物・喫茶店など馴染みの場所へ行きたい方は外出支援しています。		

グループホーム 神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力にに合わせて要望があれば所持できるように支援しています。必要なものがあれば職員と共に買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけれるように支援しています。年賀状なども書いていただき家族に届くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはゆったりと腰掛けられるソファが配置されテレビを見る方、窓から花を眺めたりして過ごされる方など配置場所を考えています。日時がわかるよう日めくりカレンダーをめぐってもらっています。季節の飾りや、季節の歌、行事の写真などを壁に張っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室には自由にカーペット、椅子など持ち込んでいただき、気の合った利用者、家族と気軽に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの、又思い出のものの家族の写真などを自由に飾っていただき、その人らしい雰囲気の中過ごせるように工夫しています。生花教室で作った作品等も飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念の一つ「もてる力が発揮できるよう」と掲げてあるように利用者の身体状況に合わせて、安全また生活の質が低下しないよう工夫している。		